

健康アドバイス

No.246



立川総合病院 呼吸器センター長
日本呼吸器外科学会 評議員

岸本 晃 司

肺がん

私が担当した肺がんの手術はこの10年間だけでも1000例を優に超えます。その全ての方に対して手術前にがんの進行度や手術の内容と期待される効果(予後)、そして危険性などについて詳しく説明を

しています。その際にいろいろな質問を受けることがあるのですが、今回はその中でよく聞かれることのうち、三つほどをご紹介します。

質問 このがんはいつ頃できたのでしょうか？

「毎年検診やかかりつけの先生の所で写真を撮ってもらって『異常なし』と言われていたのに……」というのが質問の動機です。肺がんは早期のものほど胸部単純X線写真(いつもの検診で撮影される写真です)ではわからないことがほとんどです。また、肺がんには数カ月で倍の大きさになるものもあれば、数年

かけて少しずつ大きくなるものもありさまざまです。従って、定期的なCT撮影でもしていない限り、がんのできた時期を推測するのは困難です。

質問 この肺がんは遺伝するのでしょうか？

遺伝する肺がんというものは現在のところ分かっていません。しかしながら、がんの制御に関わる物質、例えば免疫能などは受け継がれる可能性があります。実際、肺がんの家族歴のある方は、そうでない方と比べて2倍肺がんにかかりやすいことが分かっています。

質問 肺を切除した後、残った肺は再生して大きくなるのでしょうか？

肺は肝臓とは異なり再生しません。従って、切除したらその分、機能が低下します。これが息切れなどの自覚症状として現れるか否かは手

術前の肺機能に左右されます。喫煙歴もなく、きれいな肺の方であれば肺切除後でも自覚症状にあまり変化はありません。一方、喫煙によって肺気腫を生じ、肺機能が著しく低下してしまった場合、手術をすれば治る可能性のある肺がんでも、危険性が高くてその手術すらできないこともあります。喫煙は百害あって一利なしです。

以上、7回にわたって肺がんのお話をしてきましたが、これはまだごく一部に過ぎません。本連載でお伝えできなかったことについては今後、立川総合病院呼吸器センターのホームページで公開していく予定です。ご興味のある方は時々チェックしてみてください。長い間お付き合いしてくださり、どうもありがとうございました。